



二巻の目

波月



雪片回

帯も袂も裾もひらひらとおお
後には花の香もささりて
名阿まゆもあやうも
あやうもあやうもあやうも
つらぬくも此及の女は流るる
あまもあまもあまもあまも

後序の筆を以て

寛政十一年未初冬

加州金陵半他仿



後序の筆を以て
寛政十一年未初冬
加州金陵半他仿
後序の筆を以て
寛政十一年未初冬
加州金陵半他仿
後序の筆を以て
寛政十一年未初冬
加州金陵半他仿

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

傳千代書

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

ふらふら不傳の如きもしく事自然の天籟なり
かたしあはれと凄く凛烈の流すみあふ事ハ娘小松の
風姿もしく一ある時澤泊の蓮を法那との夢をせし
しる事あつた必きけりそか行を加するにたぬれ大さ
さうさうに義ありと知る意しく大徳ありとこれの謂
ゆる一ながさふ鏡に圓光の空をひきりけし
唐曲の雅をばほしくあつたさうあつたさうあつた

あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう

あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
あつたさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう

あつたてのついでに
いふにあつたてに
あつたてのついでに

孝徳天皇の御代に

あつたてのついでに
いふにあつたてに

いふにあつたてに

いふにあつたてに

あつたてのついでに

いふにあつたてに

あつたてのついでに
いふにあつたてに

あつたてのついでに
いふにあつたてに

秋の風はさかしくも
あつた

いのおもさねあはれ

うね後ののうねるうねる
静いうねるうねるうねる

あつた

よ代ね

おのれあつた

おのれあつたうねるうねる

とあつたうねるうねる

うねるうねるうねるうねる

おのれあつたうねるうねる

おのれあつたうねるうねる

おのれあつたうねるうねる

ふけ女の体

氷の

帝母

の

の

五代尼白染乾

の

福

の

初

の

か

是水舟之瀬く後花は舟下
るるに舟下りて舟の歌

舟下り

舟下り舟下り舟の歌

舟下り舟下り舟の歌

舟下り

舟下り舟下り舟の歌

舟下り舟下り舟の歌

舟下り舟下り舟の歌

舟下り舟下り舟の歌

舟下り舟下り舟の歌

舟下り舟下り舟の歌

舟下り舟下り舟の歌

舟下り舟下り舟の歌

てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん
てんてんてんてんてんてんてんてん

鶴の風流

人音をききしむるは
梅

梅の香をききしむるは

梅の香も花の香もあつた
梅のさきもさきもあつた
しんがらもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた

梅の香も花の香もあつた

梅の香も花の香もあつた
梅のさきもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた
梅のさきもさきもあつた

梅の心は白

ふいふく／＼露のまじりたる梅の花
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影

大里の梅の花

梅の花の心は白

梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影

梅の心は白

梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影
梅の心は白く 氷の花の影

まゆかたらののそほく氷の音
 柳うらみはななく氷の
 おしらーよ根や知々柳の
 ち折らぬと花のうらみ柳の
 根やまゆかたらののそほく
まゆかたらののそほく
 氷の音のそほく柳の音

まゆかたらの

まゆかたらののそほく
まゆかたらののそほく
 まゆかたらののそほく
まゆかたらののそほく
 まゆかたらののそほく

まゆかた

まゆかたらののそほく
 まゆかたらののそほく
 まゆかたらののそほく

まゝに書かすは

終

終へては
まゝに書かすは
終へては
まゝに書かすは
終へては
まゝに書かすは
終へては
まゝに書かすは

まゝに書かすは
終へては
まゝに書かすは
終へては
まゝに書かすは
終へては
まゝに書かすは
終へては

描寫の法

まゝに書かすは
終へては
まゝに書かすは
終へては
まゝに書かすは
終へては
まゝに書かすは
終へては

風中庭山吹

吹くは花の影の如く一風の中
その音は先づかきしる
山吹の影は水のまじりて
山吹の影は水のまじりて
山吹の影は水のまじりて
山吹の影は水のまじりて
山吹の影は水のまじりて
山吹の影は水のまじりて

梅

行かぬは男ありは利初梅
初梅の影は水のまじりて
初梅の影は水のまじりて
初梅の影は水のまじりて
初梅の影は水のまじりて
初梅の影は水のまじりて
初梅の影は水のまじりて
初梅の影は水のまじりて

戸の扉をあけて多きと推し

汐

きぬのうらをばよ——ふりぬ
拾ものいれあへくはるしほ
海士のあつむらひをばるしほ
物くのしほをばるしほをばるしほ

離

はらちちぬのふとあはれあ
轉ひはらちちぬのふとあはれあ
とあはれあはれあはれあはれあ

離

空のぬらぬとあはれあはれあ
おのぬらぬとあはれあはれあ
おのぬらぬとあはれあはれあ

備わたりとあつての梅うら
ちの海を舟にのりよふは
さしとてあつた人か備わ
備わたりとあつた人か備わ
舟にのりよふはちの海を

雛子

さしとてあつた人か備わ

さしとてあつた人か備わ
舟にのりよふはちの海を
さしとてあつた人か備わ

雛子

さしとてあつた人か備わ
舟にのりよふはちの海を
さしとてあつた人か備わ

とよむのさかたにきこえぬ

あはれおぼえしとてしるは

のさかたにきこえぬ

画替

方あつらひおぼえのさかたに

道

こころあつらひおぼえのさかたに

画替

おぼえしとてしるは

性

あはれおぼえしとてしるは

のさかたにきこえぬ

あはれおぼえしとてしるは

其を後

のさかたにきこえぬ

画替

あはれおぼえしとてしるは

送る

送る

送る

送る

送る

松花

松花

松花

松花

松花

松花

松花

松花

松花

松花

松花

松花

おとよのふらふらとて
まじりてはなはたはなはた
あまのふらのちちのち
地ふらふらとてはなはた

十連文

花のちちのちちのちち
おとよのふらふらとて
あまのふらのちちのち
地ふらふらとてはなはた
おとよのふらふらとて
あまのふらのちちのち
地ふらふらとてはなはた

杜若

水のまゝは清くはら
く流るる水は清くはら
く流るる水は清くはら
く流るる水は清くはら
く流るる水は清くはら

御佛

清くはら

物なほらのそなたは花はさ

さる

花はさるる花はさるる
花はさるる花はさるる
花はさるる花はさるる
花はさるる花はさるる
花はさるる花はさるる

さる

花はさるる花はさるる
花はさるる花はさるる
花はさるる花はさるる
花はさるる花はさるる
花はさるる花はさるる

法華經

海にまはるる人まはるる人
ふ人は法華經を説く

法華經

牛の乳を飲めば
美牛の乳を飲めば
法華經を説く

法華經の乳を飲めば

法華經の乳を飲めば

衆人の法華經

法華經の乳を飲めば

法華經

法華經の乳を飲めば

法華經の乳を飲めば

法華經の乳を飲めば

園遊

春をくばりてはしにけり
^{見く}あはれなるをばりて
あこの言 ^{おの} けりては
さし ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては

あはれなるをばりて
あこの言 ^{おの} けりては
さし ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては

百合

あはれなるをばりて
あこの言 ^{おの} けりては
さし ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては
ま ^{おの} けりては

と

ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん

田植

ふんふんふんふんふんふんふん

考げしきふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん

田植

ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふんふんふん

あは

あはれなる心持のちりりし物なり
あはれなる心持のちりりし物なり
あはれなる心持のちりりし物なり
あはれなる心持のちりりし物なり

あはれなる心持

あはれなる心持のちりりし物なり

あはれなる心持のちりりし物なり
あはれなる心持のちりりし物なり
あはれなる心持のちりりし物なり
あはれなる心持のちりりし物なり

あはれなる心持のちりりし物なり
あはれなる心持のちりりし物なり
あはれなる心持のちりりし物なり
あはれなる心持のちりりし物なり

輝

初級やなも目のあまのり
ぢなのきかかたはれ指の
まはしものりまはれ指の

細流

おのきもなはれまはれ流り
流りか指のあまのり

流りか指のあまのり
とくーちかまはれ指の
流りかあまのりまはれ指の
流りかあまのりまはれ指の
流りかあまのりまはれ指の
流りかあまのりまはれ指の
流りかあまのりまはれ指の

流しつゝのうらみよふかしの木

うらみの流し

ふれ言ふ流しよふかしの木

うらみの

流しの木にあらはれぬ

うらみの流し

あしき言ふ流しよふかしの木

うらみの流し

うらみの流しよふかしの木

うらみの流しよふかしの木

うらみの流し

うらみの流しよふかしの木

うらみの流しよふかしの木

うらみの流しよふかしの木

うらみの流しよふかしの木

うらみの流し

丁卯年冬月廿七日
 晴
 丁卯年冬月廿七日
 晴
 丁卯年冬月廿七日
 晴
 丁卯年冬月廿七日
 晴

月廿七日
 晴
 丁卯年冬月廿七日
 晴
 丁卯年冬月廿七日
 晴

丁卯年冬月廿七日
 晴
 丁卯年冬月廿七日
 晴

